

# ごみを減らそう!!



**1**  
清涼飲料  
左はリユースできるココロラのびん(180p)。右は、アルミ缶製(300p)



**2**  
ミネラルウォーター  
発泡性を除き、びん入りは少ない。ほとんどがペットボトル入り。右は1800p。左は500p。どちらも再生資源だ。



**3**  
牛乳  
びん(180p)は、宅配してくれる。右200p入り箱(パック)は再生を受け付けていない。



**4**  
ビール  
左の633p、500p、334pはリユースびん。右の500p、350pの缶はリサイクルできる



**5**  
清酒・焼酎  
リユースできるびん(左)と再生できないNEパック。どちらも1800p入り。



**6**  
ワイン  
一升びん(1800p)入りはリサイクルできる。NEパックはできない。



**7**  
ウィスキー等洋酒  
多種多彩なびんで売られる洋酒。その多くが資源価値を持たない。



**8**  
醸造  
リユースできる一升びん。ペットボトル(1800p)も資源化できるが。



**9**  
酢  
一升びんに入れ、リユースしているメーカーもあるのだが。



**10**  
その他調味料  
ぽん酢、ドレッシングなど、増え続ける調味料のびん、リサイクルはできるが。

## CONTENTS

- ◆特集1 京都グリーン購入ネットワーク **2**
- ◆特集2 家計にも環境にもやさしいフリーマーケットを開こう!! **4**
- ◆NEWS エコロジーはエコノミー2005ごみ減量実践講座 **6**
- ◆行政からのお知らせ 「有料指定袋制」導入に向けた基本方針について **8**
- ◆Report びっくり! エコ100選 **9**
- ◆会員探訪 株式会社 ジーエス・ユアサコーポレーション **10**
- ◆Series 「やってみます、わたしの住む町で、ごみ減らし」—— **11**
  - 安寧女性会ごみ減量推進会議(下京区)
  - 百々学区リサイクル推進委員会(山科区)
  - 南太秦女性会ごみ減量推進会議(右京区)
  - 山階学区地域ごみ減量推進会(山科区)

## ひとりの声がリユース容器の扉を開ける

「リユースびんをもっと使って!」という声を集めよう、そして大きなうねりにしよう。京都市ごみ減量推進会議・リユースびん事業化活動小委員会が呼びかけている。目標は、1000人の声。ホームページや専用紙を用いて、写真で紹介した10の容器に対して投票するだけで声になる。あなたもぜひ、リユースポスターに。(詳しくは、本誌6ページで紹介。締切は来年1月15日(日))

※写真撮影協力: 鶴岡商店

**GPN** Green Purchasing Network 

## 京都グリーン購入ネットワーク

# 京都グリーン購入ネットワーク

〜発足から一年〜

### 入口から環境のことを考える ―グリーン購入―



「ごみ問題の最良の解決策は「ごみを減らすこと」。いわゆる「リデュース (Reduce) : 排出抑制」である。ごみになるもの、自分自身が買ったもの、「不必要なものを買わない。過剰包装は避ける」といった買い物時点での意識や行動がごみ減量の決め手になる。

「グリーン購入」とは、ごみの減量をはじめ、省エネルギーや有害化学物質の削減など、個人や企業、行政機関が「環境のことを考えるのを責めごと」を、この言葉、実は日本生まれ。1996年、世界に先駆けて発足し、東京に事務局がある「グリーン購入ネットワーク (GPN)」が名付け親だ。

グリーン購入の推進には、環境に配慮した商品やサービスなどの情報共有が必須。その上で、「買い手」がより環境負荷の少ない商品を選び、製造を提供する「売り手」のものづくりを促さなく、逆に「売り手」からすると、環境負荷のより少ない商品の「買い手」を増やしていくことで、いわゆる「グリーン市場」を広げることが出来る。企業・行政・市民が連携し、「購入」という日常の行為にお

いて環境を意識するとして、「買い手」と「売り手」の相互作用を生み出し、社会全体を変え行く。それがGPNの狙いだ。

### 京都グリーン購入ネットワークの誕生



グリーン購入の取り組みをより地域に根ざしたものにしたいと、各地でもグリーン購入ネットワークがはじめている。京都でも、2004年11月「京都グリーン購入ネットワーク (京都GPN)」が誕生した。現在、府内の68の企業、9の自治体のほか、市民団体や個人なども全て合わせると100以上の会員登録がある。

京都GPNには、パンフレットやホームページを作成する「広報・コミュニケーション部会」、事業者や一般消費者へのセミナーを企画・実施する「普及・啓発活動部会」、環境ラベルについての研究を行う「環境ラベル研究部会」の3部会が設けられ、京都府内でのグリーン購入に関わる情報を発信・共有し、京都の個性や特色を生かしたグリーン市場の拡大を目指して活動している。今、特に力を入れているのが、会員企業を取り扱うグリーン

ン商品のリストアップだ。リストアップに際しては、それぞれの製品が環境面で確保すべき項目についてチェックするが、例えば「古紙配合率が70%以上」といった具体的な数値基準は設けないこととしている。各社が賞の高いものを競うことで、水準の低い製品は自ら廃棄所をなくす仕組みづくりを狙う。また、地産地消を促しているが、できるだけ京都つくられたものを優先的にリストアップすると検討中だ。京都GPNはグリーン購入という流れの中で「売り手」と「買い手」をつなぐ役割を担う。

では、実際にものづくりをしている会員企業の取り組みはどのようなのか。設立時から会員で、幹事を務める村田製作所に話を伺った。

### 会員企業の取り組み

#### 村田製作所



ISO14001やKEMSの認証取得など、環境経営の体制が整っているが、特定の有害化学物質を含有した資材を納入しないことを保証できるかなど、村田製作所では、独自の調査を行って取引の可否を決め、グリーン調達を実施している。



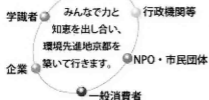
京都GNPホームページ (<http://www.k-gpn.org/index.html>)  
設立の趣旨や目的などをわかりやすく説明しているほか、イベントの情報も掲載した。

### 京都GNP 3つの目的

- 1 環境に優しい商品・サービスを京都府内に普及し、グリーン市場を拡大します。
- 2 グリーン購入に取り組む消費者・事業者・行政の情報交流と活動促進の場とする。
- 3 京都府内で環境に優しい商品・サービスを提供している事業者の活動を支援する。

京都GNP3つの目的

### 京都グリーン購入ネットワーク



村田製作所のグリーン調達・保証資料のグリーン度、仕入先のグリーン度などが審査された上で、取引の契約が行われる。



京都GNP設立記念イベントで発表する村田製作所の西村正人さん。3月20日、京都のアートコンプレックス1928で開催されたこのイベントには、70人強の参加者があった。

### ■京都グリーン購入ネットワークへのお問い合わせ

事務局所在地：〒604-0932 京都市中京区寺町通り二条下る 興波ビル3階

特定非営利活動法人 環境市民内 TEL&FAX: 075-241-4664

MAIL: [kgpn@dolphin.ocn.ne.jp](mailto:kgpn@dolphin.ocn.ne.jp) URL: <http://www.k-gpn.org/index.html>

97年より取り組んでいた有害な化学物質の排除を目的とした「グリーン調達」を、更に本格化したのは01年から。きっかけは、L.O.H.Sなど海外での有害化学物質規制強化に備える得意先側からの要請だ。規制に対応する製品づくりのためには、会社社員の入口、すなわち調達段階で対策を講じるのがなによりだ。単に法規制に対応するだけでなく、独自の判断で化学物質の使用禁止や削減を定めた採買基準を設け、有害物質の削減に取り組んでいる。こうすることで、最終的には有害物質の削減をもたらし、村田製作所では国内外全ての生産拠点において、ISO14001の認証を取得しているほか、一部の包装材料を再使用し、包装材料の削減、一部の「自己製品を提供する側として」「買い手」のグリーン購入（調達）を可能としている。

### グリーン調達の管理・保証



は、一般消費者にグリーン活動を勧誘する機会になった。また、市民にとっては買取り中の身近な製品と企業のものづくりのつながりを理解する機会となった。様々な立場の人たちが情報共有し、「グリーン購入」という仕組みを実感する。まさに「グリーン購入ネットワーク」の醍醐味とするところだ。

### 「グリーン購入」から始まる、持続可能な社会への一歩

グリーン購入ネットワークが目指すのは、「環境に配慮した消費が当たり前な社会」。物をたくさん作って捨てる社会ではなく、物を大事にして、本来の意味での豊かさを味わうことのできる社会への転換。その第一歩は、毎日の消費生活から始まっていく。

「持続可能な社会とは、環境も人も大切にす社会。企業にも当てはまり、これからは品質や価格だけでなく、環境や人を大切にす企業であることが求められる。企業の中身を見て、商品を選ぶ時代になっていくと、京都GNPの事務局長を務める堀手弘さんと環境と人とが調和した社会。そんな社会を、ここ京都から実現しようと熱意を燃やす。人

と地球の豊かな未来を見つめ活動する京都GNPに期待したい。

その前は、堀手さん（京都グリーン購入ネットワーク事務局）、堀田 昌之さん（一戸製作所）、西村正人さん（東洋印刷）様と株式会社村田製作所の協力を得て作成しました。



取材にご協力いただいた、堀手弘さん（京都グリーン購入ネットワーク事務局）

画像に表れる  
中村真実さん



—「要らなくなったら要る人へ」、リサイクルの輪を広げるために—

# 家計にも環境にもやさしい フリーマーケットを開こう!!



日本で初めてフリーマーケットが開催されたのは、1979年。日本フリーマーケット協会が大阪で実施したのが始まりといわれている。それから4半世紀が過ぎた今日、フリーマーケットは、市民によるイベントや、学園祭などでの人気の催し物のひとつになった。家庭で不要になった物品を集めて出店し、必要な人がそれらを購入するというシステムは、物を大事にするという「もったいない」の精神に立っている。ごみ減らしもかねている。今回は、フリーマーケットに関する情報を集めてみた。これを手引きとして、仲間同士やご近所などで、フリーマーケットを開催してみよう。どうだろう。

## 道楽する立場から 地道に宣伝を重ねたから、市民に浸透

京都市ごみ減量推進会議主催する「市役所前フリーマーケット」は、月1回、京都市役所前広場で開催されている。販売開始の10時は、会場は賑わい出し物を見ついたら来た人々で溢れに賑わっていた。「お安くしますよー、見ていくついでーい〜」と出店者も元気よく声をあげず。各ブースには山積みされた衣料品、靴、スカーフ、おもちゃ…。それぞれ持ち主の手を離れたたくさんの「商品」に目移りしながら歩かお家さんたち。「これとこれ、2つで500円どうぞ?」出店者との交渉も盛り上がりつつある。買い物上手に売り上手、中にはジャンケンで買値の割に決着をつけている場面も見られた。

今回（10月16日開催）で第83回目を迎え入る市役所前フリーマーケット。現在では160あるブースの定員を超える出店希望者があり、抽籤で出店者をめぐることも多いという。開催当日は多くの市民が訪れ、毎月、定例のイベントとして定着していることがうかがえる。

「1998年の開始以来、実施回数を重ねながら、地道に宣伝力をかけてきたから」と、フリーマーケットを運営する、NPO法人プラスネットワークの中村真実さんは、定着の要因を語ってくれた。フリーマーケットの出展者募集、実施案内は、チラシやポスターカードといった印刷品はあっても、HP上での告知も行っている。最近では、過去に出店経験がある人にメッセージリストに加入してもらい、定期的に実施情報も配信し、参加を促しているのだとされた。それ以上に効果的なのが、当日の出店者・来場者による口コミ。噂が噂を呼び、フリーマーケットの開催日には、毎月約1万人の人も会場を訪れるまでになった。

## 参加者の声 売ってありがとう、買ってありがとうの合唱

以上に何回も出店経験があるという中村さんは、ビニールシートの上にならぶたくさんの子供服をばたお店を出していた。「服は5〜7年くらい、とどこか誰かに着てもらえるなら、という思いで参加している。特に子ども服は洋服は小さく小さくなってしまいうので…」と東様。確かに、着られなくなったという洋服を捨ててしまうのはもったいない。そのサイズの子供服を必要としている人が、きっと他にもいるはずだ。

友達同士で出店したという女性のグループは、たくさんの衣料品をこやかに売っていた。色々年輩のお客さんが来てくれて、声をかけるのも楽しかった。これは入場が無料だから。より多くの人に利用してもらいたいという気持があります」と語りながらも、「なにちもどうぞですか?」とお客さんとのコミュニケーションも欠かせない。これに対して、よく買い物に来るという大学生は、「洋服などとかよく値段安くて、助かっています」という。「お先に、また来てね。買ってくださりありがとうございます、売ってくださりありがとうございますの声がかかるフリーマーケットだった。



「おおきに」「ありがとうございます」が石巻く



赤ちゃんと便利なキッズコーナーを設ける



「なんぼにしてくれる?」は必ずお客

## フリーマーケットに挑戦! 主旨をしっかり、効果的に募集を

「これだけの人が集まり、交流の生まれる場になったことで、本当にやりがいがある。これらもこまめに貢献したい」と、中村さんは「市役所前フリー」の成功の秘訣をこう感じている。今後は京都市の内外を問わず、各地でフリーマーケットの開催を企画・予定していることだ。

最後に、中村さんからフリーマーケットを行うにあたってのアドバイスをいただいた。「まず、どんなフリーマーケットを行いたいのか。実は効果的であったり運営をしっかりとさせること。そして計画的なこと、出店者を集めること、出店者を集めること、出店者が多いほど、お客さんが増えるから。また、継続的に開催することで、フリーマーケットが地域に根づいていくでしょう。」

タンスの肥やしになっている洋服、もう履けなくなってしまう靴、使わぬ衣類類…。お家で眠っている品物たちは、誰かに使ってもらえる日を待っている。「要らなくなったら、要る人へ」を合言葉に、仲間やご近所と協力し、ごみ減らしにもつながるフリーマーケットを企画・実施してみよう。リサイクルの輪を広げる活動にもますますかっつくこと、間違いなしだ。



大抵「市役所前フリー」が人気

## ◆今後開催予定のフリーマーケット 市役所前フリーマーケットが毎月開催されるほか、市内各所でフリーマーケットの実験予定がある（※詳細は各主催者に確認ください。）

催し名	開催日	会場	主催	ブース数	雨天時	
パンビオ・フリーマーケット	11/27	10:30~15:00	JR長岡京駅前広場公園	なでしこふれあいNPO協会 (Tel:0774-86-5328)	70	中止
フリーマイン京橋	12/10		パルスプラザ	プラスワンネットワーク (Tel: 075-229-7713)	50	実施
フリーマイン2005	12/11	10:00~16:00				
市役所前フリーマ	12/18	10:00~16:00	市役所前広場	京都市ごみ減量推進会議	160	12/23
パンビオ・フリーマーケット	12/25	10:00~15:00	JR長岡京駅前広場公園	なでしこふれあいNPO協会 (Tel:0774-86-5328)	70	中止
市役所前フリーマ	1/8	10:00~16:00	市役所前広場	京都市ごみ減量推進会議	160	1/9



友だち同士で出店



どなたしよか、第3の楽しさ



## リユースびん入り 商品の誕生に向けて、 動きが活発化

リユースびん回収拠点マップづくりや賞、シンポジウムなどを重ねてきた、リユースびん事業推進活動小委員会の動きが活発化を帯びてきた。

一つは、メーカーによる実用化に向けての動き。10月24日(月)午後、同小委員会が呼びかけ、リユースびんに関する商社、許などの産業界、メーカー及び事業者、小売に携わる流通業者の方、行政、そして市民が集まり、「リユースびん採用に関する懇談会」を行った(会場：京都商工会議所)。同委員会の連綿明子さんが司会進行役を務め、同委員会の大西啓子さんがこれまでの経過を報告、Rマーク入りのリユースびんについての理解を促した。また、小売の立場から継続開業さん(上京小売販路総代理店)社長が、リユースびん入り商品の種別的な販売姿勢を示した。このたびのブランドで知られる商品を送り出すメーカーからは、同委員会が提案している共通規格びん(共同購入体数社でリユースびんとして採用されているびん)は「調剤料としてふさわしくない」などの意見も出された。結局は、現在使用している900ミリリットル瓶入りは共通びんであり、リユースびんを貼ればいいのでは」との現実的な意見が大勢を占めることになった。この懇談会は事業化に向けての弾みともなった。

メーカーへの働きかけは今後も継続し、「06年春には、リユースびん入りの商品の実現に漕ぎつけたい」と、連綿さんらも意欲を込めて話している。

もう一つの動きは、「リユースびんを広

## 山科区と北区の地域 ごみ減量推進会議が 行政区ごとのミーテ ィング会議を開く

現在、75団体が活動する地域ごみ減量推進会議だが、情報交換の機会が少なく、近隣の組織を互いに知ることがなかった。横のつながりの強化を目的に、04年9月行政区の代表者が選出された。この流れを受け、11月1日(火)午前、行政区ミーティングが山科で開かれた。西野地域ごみ減量推進会議「めぐる会」をはじめ、山科区で活動する11団体の代表が集まり、活動を報告しあつた。市環境局も参加し、幅広い情報交換が行われた。

なお、11月30日、北区ミーティング10団体参加の下、開催された。今後、行政区ごとのミーティングは各地で開催される予定だ。

## 地域に環境活動を根づかせよう 「第3回やまなしな環境 フォーラム」開催

地域で環境活動を浸透させていくことと、山科で3年前に始まった環境に関する催しが、この秋も開かれた。11月5日(土)午後、ごみ減量「私たちの生活スタイル」を見直そうをテーマにした「第3回やまなしな環境フォーラム」(会場：アスニー山科)は、1800人の参

## 循環型社会形成を目指し5テーマで開く エコロジイはエコノミー2005ごみ減量実践講座

00年秋以来、京都商工会議所との共催で、主に企業の参加を期待して多方面から講師を招き開講している、ごみ減量実践講座。今年度から、京エコロジイセンターとの共催で開催し、第1回から第4回まで活発に開講された。第5回は「有害化学物質をどう扱うか?」をテーマに、酒井伸一氏(京都大学環

境保全センター教授)を招き、06年2月9日(木)午後1時30~4時)開催予定だ。また、本講座に連動しての企画一見を聞いて「ミニごみツアー」は企業の協力を得て2回実施し、7月14日(木)福田金属箔粉工業に続き、8月25日(木)はサンロールを視察した。

### 第1回

「3Rを広げよう!」~もっともったいないを~  
日時: 8月3日 会場: 京エコロジイセンター



パネリストの方々、左より高月眞氏、船村知孝氏、瀬川春徳氏、連綿明子氏、前田真貴氏

### 第4回

「KESの手法でごみ減量の成果をあげよう」  
日時: 11月10日 会場: 京都商工会議所2階 教室



水口保氏(数研院研究所) 田嶋宏氏(日本電気化学) 豊川佳夫氏(京のアジェンダフォーラム)

### 第2回

「京都市の地球温暖化対策条例」と  
「京都市の環境会計」

日時: 9月8日  
会場: 京都商工会議所2階 教室



岡田泰和氏(京都市環境局) 北村高文氏(京都市環境局)

### 第3回

「エコデザインでごみを出さない商品などのづくり」  
日時: 10月13日 会場: 京都商工会議所2階 教室



益田文和氏(東京造形大学教授) 北村真二氏(京都市産業観光局)

## 京都市ごみ減量 めぐるくん推進友の会の 協力を得て、買い物袋持参 キャンペーンを展開

京都市をはじめ14の政令指定都市と東京23区で構成される大都市清掃事業協議会では、10月を3月推進月間としてごみ減量の啓発を進めた。この動きに呼応し京都市ごみ減量推進会議ではキャンペーンを実施中だ。平成17年度は、京都市ごみ減量推進員の経験者による団体、めぐるくん推進友の会（山内寛会長・会員約120名）の協力を得て京都市主催の「区民ふれあいまつり」開催時に、ペットボトル再生素材による買い物袋を手渡している。10月16日「中京区民ふれあいまつり」に始まり、深草、上京など11の区民まつりで買い物袋を配布しながら持参を呼びかけた。このキャンペーンは、12月10日（土）・11日（日）は京都環境フェスティバル（京都府主催、会場：パルスプラザ）で締めくくる。



中京区民ふれあいまつりで啓発を行う、高橋かつ子さん、五原真由さん、大上梅子さん（左より）

### 最近の動きから

8月7日（日）、第19回牛乳パックの再利用を考える全国大会で朱雀第三小学校赤羽校長が講演。山内寛会長代行、高橋かつ子理事が出席した。

9月27日（火）午後、第31回理事会（理事・監事合同会議）開催。家庭ごみ収集における「有料指定袋制」導入に向けた基本方針について環境局より報告。各実行委員会の事業や活動について報告。

10月12日（水）午後、普及啓発実行委員・買い物袋持参キャンペーン小委員会合同会議を開催。家庭ごみ収集における基本方針についての報告をはじめ、4つの小委員会の活動報告の後、買い物袋持参・簡易包装推進キャンペーンの実施について、会員拡大について意見交換があった。



山内会長



会議風景

URL <http://www.miyako-eco.jp/bottle/>  
(表紙に関連記事)

加を得て幕をあげた。山内寛実行委員長（京都市ごみ減量推進会議会長代行）のあいさつを皮切りに、堀孝弘氏（京都グリーン購入ネットワーク事務局長）による「ごみ減量は暮らしの入り口から」と題した講演があった。行政からは瀬川道徳環境局循環型社会推進課長が、ごみの有料指定袋導入に向けた基本方針を報告した。引き続き、市民の立場からの報告があり、地元で活動を続ける、地域ごみ減量推進会議、地域女性会、保健協議会連合会からそれぞれ1日頃の成果が紹介された。質疑応答では「不法投棄が多い。何とかして」などの意見が出された。最後に堀氏が、「ごみ減らしには、地域コミュニケーションづくりが不可欠」と、参加者にエールを送った。



山内会長代行

## 恒例の子どもワークショップ 今年も親子でマンガを描いた

環境マンガで知られる、ハイ・ムーン氏を講師に迎えて、こどもたちを対象にしたワークショップが開かれた（8月13日）。普及啓発実行委員会・子どもワークショップ小委員会が運営し、5年が経つ夏開かれていた。今年は、四条河原町の高島屋を会場に、親子での参加を呼びかけ実施された。同日1階で開催中の「じゅくろーエコ100選2005」の一事業として、午前11時と午後1時の2回、飛び入りも加え36名が参加した。ハイ・ムーン氏からマンガの基本を習い、「ごみを減らすにはどうしたらいい？」などの問いかけに答えながら、環境について学び、最後にマンガを描いた。参加者が親子で手がけた作品は、高島屋の7階ランドホールに展示された。



## 家庭ごみにおける「有料指定袋制」導入に向けた基本方針について

京都市では、「循環型社会」「脱温暖化社会」の実現に向け、大量生産・大量消費・大量廃棄の現在のライフスタイルを見直す契機として、また、ごみ減量・リサイクルの取組を一層促進することを目的として、家庭ごみ収集における「有料指定袋制」導入の基本方針を策定しました。

実施時期は平成18年10月の予定ですが、市民の皆さんから広くご意見・ご提案を集め、その上で、平成17年12月に、最終的な方針を決めたいと考えております。

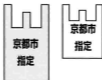
### 基本方針の主な内容

「有料指定袋制」とは、条例に基づき、市民の皆さんに、ごみを出していただく際に市指定の有料指定袋を使っていただくものです。これにより、ごみの減量と分別・リサイクルの促進、ごみの排出量に応じた費用負担の公平化などを図ることができます。また、定期収集ごみの袋を半透明とすることでプライバシーに配慮しつつ、事業系のごみや資源ごみの混入を防止し、併せて、資源ごみの袋を透明とする。

【現在】  
自由な袋での排出



【平成18年10月～予定】  
有料指定袋での排出



実施時期  
平成18年10月予定

制度導入で、家庭から排出されるごみ（定期収集ごみ）が20%減ると予測しています。よりよい地球環境を次の世代に引き継ぐことは、今を生きる私たちの使命です。ごみ減量とリサイクルの一層の推進は、二酸化炭素などの温室効果ガスを削減することができ、地球環境問題の解決につながります。

### 有料指定袋の規格・価格

種類	透明度	容量	価格 (税込)
定期収集ごみ 家庭から排出されるごみ	半透明	45リットル	50円/枚
		30リットル	30円/枚
		10リットル	10円/枚
資源ごみ	透明	45リットル	25円/枚
		30リットル	15円/枚
小型金属類	透明な袋（指定袋にしません）		



ごみ減量マスコット  
「めぐるくん」

【お問合せ先】

〒604-8571（住所不要）

京都市環境局地球環境政策部循環型社会推進課

（電話）075-222-4091（FAX）075-213-0453

（ホームページ）<http://www.city.kyoto.jp/kankyo/recycle/>

この夏、エコの種をまきたい! という想いが実を結んだ

# びっくり! エコ100選

2005



「もったいない」から始めるやさしい暮らし

2005年8月10日～8月16日 京都高島屋1階ゆとりうむ/7階グランドホール特設会場



五山の送り火を前に、浴衣姿の人で彩られた夏の京都に、100のびっくりなエコが出現!

昔懐かし「もったいないお化け」のCMに釘付けになる今どきのちびっこマータイさんの迫力ある「MOTTAINAI」に夢を止める若者、パネルの前で話を弾ませるカッパル。ワークショップの作品を大切に抱えて帰る小学生。エコカーに採用された自分の絵を見に、遠方から来たという親子授業の教材にとパンフレットを持ち帰る学校の先生。夏休みの宿題にと一所懸命メモを取る生徒たち……。一つでもエコの種をまきたい! という実行委員会の熱い想いが実を結んだ瞬間を今でも鮮やかに残っています。

## ※「京都のど真ん中」から発信!?

そもそも、今春のこと。京都議定書発効や愛・地球博開催という、このときに、何かムーブメントを! と、関係者と話したのがきっかけです。いろいろな方が通られる百貨店の1階・・・ここから、エコな発信ができないか? 目標は、ズバリ直球で「市民の方、一人ひとりの環境意識や行動レベルの底上げ」。そうして内外の調整を始め、企画を練り始めたのが5月。実行委員会を立ち上げ、テーマを決めたのは6月のことです。

## ※ 広がる輪に、感激の「びっくり!」

まさに時間との勝負! まして、結果や利益に即座に結びつきにくい目標を踏んでいますので、どれくらいの理解と協力が得られるか・・・当初(実施1カ月前!)全く読めませんでした。蓋を開けてみると、まさに産官学・市民が連携した実行委員会に、地域や分野を超えた多様な出展・・・本当に感激しました。実際の制作物も、タイトなスケジュールで「100」を何度も恨みました。これが形にできたのは、実行委員会メンバーやスタッフの底力としが言いようがありません。

## ※ 「大きな手応え」から

会期中の会場では、ふと足を止め、それから熱心に見入ったり、会話を弾ませておられる姿を間断なく見ることができました。また、7階のワークショップや作品展示でも、目を輝かせる子供たちの様子に大きな手応えを感じました。「エコナビゲーター」の方の力も借りて、多くの方にエコの種をまくことができたのではないかと考えています。

また、多くの関係者がそれぞれの主張や営みを持ちつつ、一つの目標に向かってメッセージを発信するという新しいスタイルを買ったのではないかと思います。

## ※ 「次の一手」へ

今、次に向けた準備を始めようとしています。「100」は、たくさんですが、一つでも誰かの心に響くものがあればと思います。「エコ100選」は、複雑な環境問題の関連性を読み解き、考え、動き出す機会を、地道かつ新新に提供します。それが一石となり、京都中の人に浸透し、町の表情を変えるように広がってゆけば・・・。そのために、皆様からの「びっくり」するようなアイデアもお待ちしております!



### 実績データ

- ◆主催: びっくり! エコ100選2005 実行委員会 (新たに立ち上がった産官学・市民の連携組織)
- ◆実施内容: エコな話題100点のパネル・製品展示、案内・投票(1階)、ハイムーン環境まんが展、小池正孝著アート作品展、ワークショップ(7階)
- ◆推定見学者数: 46,000人
- ◆ワークショップ参加者数: 161人
- ◆実行委員会参加企業・団体: 18
- ◆協賛企業・団体数: 24
- ◆エコナビゲーター: 40人





# 会員探訪

市民団体、事業者、各種事業者団体、専門家など、多彩な顔ぶれで構成される京都市ごみ減量推進会議。今回も会員の活動を取材しました。

取材：高島 章（京都大学工学部地球工学科4年生）



ジーエスユアサコーポレーション京都本社

## 株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

**Q** どのような廃棄物削減への取り組みを？

**A** 当社グループでは廃棄物削減のため、廃棄物の発生抑制と、廃棄物を約30種類に分類し、そのうち再資源化が可能な約20種類についてはリサイクルを徹底しています。製造工程の改善によって不良率や仕損じ低減に努め、また各事業所で発生した廃棄物を別収集してリサイクルに取り組み、できるだけ廃棄物を出さないよう心がけています。

**Q** エコリターとは？

**A** エコリターとは分別徹底のためのリーダーです。ごみの分別は人がやることですが、その分別の判断が難しい場合もあり異物混入などのミスが起こります。これを未然に防止し、かつ社員に正しい分別を定着させるため、20人に1人くらいの割合で知識を持ったリーダーを置き、分別徹底に努めています。

当社グループでは廃棄物削減の一環として紙の分別とリサイクルを推進しています。京都事業所では各部署ごとに紙の集積場所を設け、紙の種類に応じた箱の色分けをしたり、分別方法を図示したりしています。



各部署ごとに設けられている紙ごみ集積場所の様子

**Q** 自動車用、二輪用の電池には鉛が使われています。

**A** 確かに自動車用、二輪用、それ以外にも非常時電源に用いられる産業用鉛蓄電池、コードレス機器電源やUPS（無停電電源装置）などに用いられる小型シール電池などには鉛を含む鉛蓄電池が用いられています。

鉛は再資源化に優れた物質です。当社では製造工程で発生した鉛屑類は工程に戻して再利用したり、リサイクル業者に渡したりして製造工程からの鉛廃棄量を最小限に抑えています。また使用済み鉛蓄電池をリサイクルに取り組みなど、環境負荷の低減に努めています。その結果、廃水処理施設から発生する汚泥に含まれる微量の鉛を例外として再資源化率は、ほぼ100%に達しています。

**Q** 環境学習を実施されていますか？

**A** 当社グループ京都事業所では、総合学習の一環として京都市の小学校に招かれ、03年度から環境をテーマにした授業を実施しています。ちなみに04年度は「燃料電池」と「太陽光発電」について授業を行いました。このような学習を通じて小学生の皆さんに環境問題の重大さや「燃料電池」や「太陽光発電」などのクリーンエネルギーの有効性についての理解のお役に立てたいと思っています。

**Q** 今後の展開は？

**A** 京都事業所では05年度目標として、「リサイクル率（ない）産業・一般廃棄物の総排出量を99年01年度比で50%以上削減」という具体的な目標値を定め、その達成に向け取り組み、今後更なるごみ減量とリサイクル率の向上を目指しています。それを達成すべく分別回収の徹底を進めていきたいと思っています。

また、工場の廃水浄化施設から出される汚泥

は、現在はコンクリート固化の上で管理型最終処分されていますが、この汚泥についても減量、リサイクル化を通じて環境負荷の低減に努めていきたいと思っています。



取材に応じてくださった川口 雅史さん（ジーエス・ユアサ ビジネスサポート 総務サポート課 担当部長 写真右） 江川 知夫さん（ジーエス・ユアサ マニファクチャリング環境管理グループ リーダー 写真左）



色分けされた分別回収BOX

### 株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション (GS Yuasa Corporation)

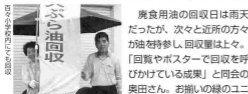
本社所在地：京都本社  
〒601-8520 京都市南区西九条丁西ノ庄猪之馬場1番地  
TEL：075-312-1211  
URL：http://www.gs-yuasa.com/jp  
代表取締役社長：大坪 愛雄  
設立：2004年4月1日  
資本金：150億円（2005年3月31日現在）  
従業員数：314名（2005年3月31日現在）  
関連事業概要：各種蓄電池・電源装置・照明機器、その他応用機器の製造販売

# 「やっています。わたしの住む町で、ごみ減らし」

## 地域の団体が協力 幅広い年代層でリサイクル活動

百々学区リサイクル推進委員会（山科区）

約2年前、百々学区の女性会・保健協議会・自治連合会が合同で立ち上げたリサイクル推進委員会。その名の通り、廃食用油や空き缶のプルタブ回収、買い物袋持参運動、花いっぱい運動、さらには施設見学会を実施するなど、日々幅広い活動を展開している。



廃食用油の回収日は雨天だったが、次々と近所の方々から油を持参し、回収量は上々。「回収やポスターで回収を呼びかけている成果」と同会の奥田さん。お揃いの緑のユニホームを着たメンバーが油の持参者の対応にあたり、市が推奨するごみ袋を配布する。「また来月」と帰っていくお馴染みさんも。回収日の告知の浸透ぶりがうかがえた。

同会の母体のひとつ、自治連合会には学区の小中学校のPTAや、老人会など様々な団体が所属している。若者からお年寄りまでの幅広い年代層が運営に携わっていることで、活動の普及・啓発運動は順調だという。今後は、市が導入を検討している指定ごみ袋制度に関する学習会も予定。多彩なメンバーが実践する環境保護の輪は、着実に広がっている。



- ◆会長：加納弘美 ◆学区世帯数：約4,200世帯
- ◆発足：2003年（平成15年）9月
- ◆使用済みてんぷら油の回収：拠点3カ所：毎月第2土曜日、午前10時半～11時半
- ◆プルタブの回収：常時（ある程度たまったらリサイクルにまわす）

取材：佐藤明子

## 地域のまつりでフリマや寸劇 学習成果を楽しく伝えて

安寧女性会ごみ減量推進会議（下京区）

女性会を母体に同会が発足したのは6年前。25年間続く古紙回収がすっかり定着し、市からの使用済みてんぷら油回収の呼びかけにもごく自然に対応。古紙回収に合わせて油の回収を開始した。毎回ポスターを掲示する他、チラシを全戸に配布して協力を呼びかける。

会員の学習意欲は高く、毎年ある「市民スクール21」のうち数回は環境をテーマに開く。施設見学や学習会なども実施。全会員にペットボトルから再生した買ひ物袋を配布したり、環境家計簿に取り組んだりもした。

同会が学習の成果を地域に披露する方法もユニークだ。地域のふれあい祭りがその場となる。フリーマーケットを開催する他、昨年はごみ減量を題材に自作自演の寸劇を演じた。役員がびんや油、古紙などの「ごみ」に扮し、それぞれの正しい行き先に分かれる展開。分別の方法がわかりやすく大変好評だったという。会長の西川富久さんは「地域の環境に対する意識は高くなった」と感じる。限られた予算の中で活動を拡げるのは大変だが「寸劇？呼んでもらったら行きますよ」と意欲的だ。



廃棄物に処理されたポスター



役員のみなさん。前列右端が西川会長



配布された「しし紙」は目が暗かすざるのが特徴

- ◆会長：西川富久子
- ◆学区世帯数：580世帯
- ◆発足：1999年（平成11年）4月
- ◆使用済みてんぷら油の回収：拠点は5カ所。偶数月第1日曜日、午前8時～11時
- ◆古紙回収：拠点は17カ所。回収日は油と同じ

取材：岡 かおる

# 「やっています。わたしの住む町で、ごみ減らし」

## （ 支えあえる人間関係から見える 地域コミュニティづくりの兆し ）

山階学区地域ごみ減量推進会（山科区）

「あなたととも、頑張てや。山科地域で環境活動をする人内寛（会長代行）の声に後押しされるように、昨年3月立ち上がった「山階学区地域ごみ減量推進会」。地元で活動する保健協議会、女性会、自治連合会の3団体が手を組んでのスタートだった。それぞれの団体のニュースを活用しててんぶら油の回収を告知するほか、口コミでの広がりもあり、協力する人が少しずつ増えてきた。

通勤前などに立ち寄る人に配慮し、持参された容器の処理は、世話役が引き受け、油を移し替えた後のペットボトル、缶、びんは分別して、持ち帰り処理している。

課題である拠点の拡大にも前向きで「あるスーパーと現在交渉中」と伊藤会長。第3回山科環境フォーラムで報告をするなど、意欲的な水井美智子さんは、6年がかりで回収してきたプラタブタドラム缶9本分溜まり「ようやく車いす1台が寄付できる」と目を輝かせた。住友正徳さんは、3年前から「子どもたち見守り隊」を組織し、小学生の登下校に付き添うなどしている。世話役の方々のつながりも堅く、てんぶら油の回収が地域コミュニティづくりの基盤となっていると見てとれた。



環境活動に参加する子どもたち



環境活動に参加する子どもたち

- ◆会長：伊藤一男 ◆発足：2002年（平成16年3月）
- ◆学区世帯数：2800世帯 ◆使用済みてんぶら油の回収：拠点4は3カ所、毎月第4金曜日、午前8時30分～10時
- ◆プラタブタ回収：常時。水井さん宅に回収箱設置

取材：森田節子

## （ 月一回の勉強会が活動の原点 油のドラム缶が輪づくり役 ）

南太奈女性会ごみ減量推進会議（右京区）



環境活動に参加する女性たち

市内の女性会としては最も早く1997年（平成9年）から独自に使用済みてんぶら油の回収を始めた。当初は石けんづくりをしていたが、それも水問題から見れば最善の方法ではないと気づく。市の廃油燃料化の話を受けてすぐに方向を転換。自治連の協力を得て対象を全学区に拡げ、女性会を母体として同会を立ち上げた。

油の回収は今や地域にすっかり定着。量が多いため拠点4カ所のうち2カ所はドラム缶だ。朝9時に業者が設置する。他2カ所はポリタンクを常設し、仕事などで当日持ち込めない人へ配慮している。こうしたきめ細かさや量を増やす秘訣だという。

同会では古紙や乾電池の回収に協力する他、毎月子どもたちと一緒に地域の清掃も行う。役員の高齢化が進み課題のある地域は多いが、同会では若い人の参加も増えている。「しんどいことも含めた上で活動の楽しさを伝えたい」と菊池初江会長。今月一回の勉強会は欠かさない。ただ活動が活発なだけに、女性会からの持ち出しで経費を賄わなければならないのが実情だ。



環境活動に参加する子どもたち



環境活動に参加する子どもたち

- ◆会長：菊池初江 ◆学区世帯数：1700世帯
- ◆発足：1999年（平成11年）7月
- ◆使用済みてんぶら油の回収：拠点は4カ所。毎月第4土曜日、午前10時～11時

取材：岡かおる

### 京都市ごみ減量推進会議会報誌 ごみを減らそう！ No.30

発行：京都市ごみ減量推進会議事務局 2005年（平成17年）12月発行

〒604-8571 京都市中京区寺町御池

京都市環境局 地球環境政策部 循環型社会推進課内

TEL 075-257-5053 FAX 075-213-0453

京工コロジセンター活動支援室 TEL&FAX 075-647-3444

E-mail gomigen@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html

企画編集 京都市ごみ減量推進会議 普及啓発実行委員会（会報誌・ホームページ小委員会）

深沢 美鈴・植村 章弘・梅影 真生・大橋 正明・岡 かおる・小野 真志・

佐藤 明子・野村 直史・森田 知都子・山本 史史

事務局：近藤 烈・田中 真砂子

### 【入会のご案内】

京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしたいと暮らしの実現に寄与することを目的として、市民、事業者、行政により1996年11月に設立した団体です。パートナーシップで多彩な活動を展開中。京都市ごみ減量推進会議では、ともに活動する会員を募っています。

### 【会費】

- |                           |                   |
|---------------------------|-------------------|
| 市民（市民団体・消費者団体・環境団体等）      | 1口1千円<br>（年間1口以上） |
| 専門家（学識経験者等）               |                   |
| 地域ごみ減量推進会議                |                   |
| 大学・マスメディア・事業者団体<br>企業等・行政 | 1口1千円<br>（年間2口以上） |

詳細は、事務局へお問い合わせください。